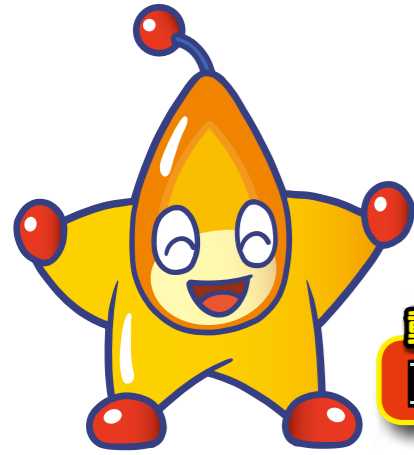


3 省エネしよう！

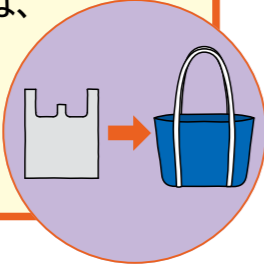


一人ひとりが省エネすれば大きな効果につながるよ。



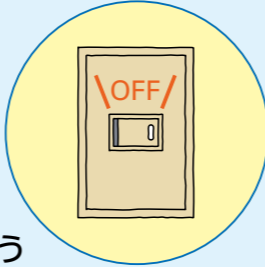
家庭でできること

- エアコンは夏は28℃、冬は20℃くらいを目安にしよう
- だれもいない部屋の電気は消そう
- だれも見えていないテレビはつけたままにしないで消そう
- 電気製品を買うときは省エネタイプのものをえらぼう
- 近くに出かけるときは歩いて行くか、自転車で行こう
- 洗面や歯みがきのときには、水をこまめに止めよう
- 買い物に行くときはマイバッグを持っていこう



学校でできること

- だれもいない教室の電気は消そう
- 授業中はろうかやトイレの電気は消そう
- だれもいない教室のエアコンは消そう
- 水道を使うときはこまめに水をとめよう



省エネのアイデアや工夫をみんなで考えよう！

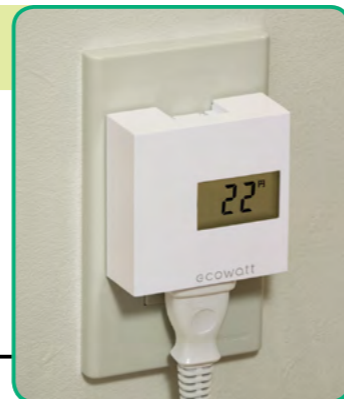


毎日続けられるように見直しながらやろう！

「省エネ」とは「省エネルギー」の略語だよ。電気やガスなどのエネルギーを使う時はむだのないように使おう、という考え方だ。わたしたちがふだんの生活の中でできることや、会社が工場の効率をよくすることなど、いろいろな方法がある。省エネは毎日少しずつ長く続けることが大切だ。むりのない行動で定期的にやり方を見直しながら続けよう。

簡易型電力表示器で電気の使用量を見よう

家庭でもっとも取り組みやすい省エネは、節電で電気の使用量をへらすことだ。簡易型電力表示器（「エコワット」など）は、電気の使用量や料金、二酸化炭素の排出量などを測って計算してくれる機器である。いろいろな電気製品を測定したり、設定を変えたりして試してみよう。

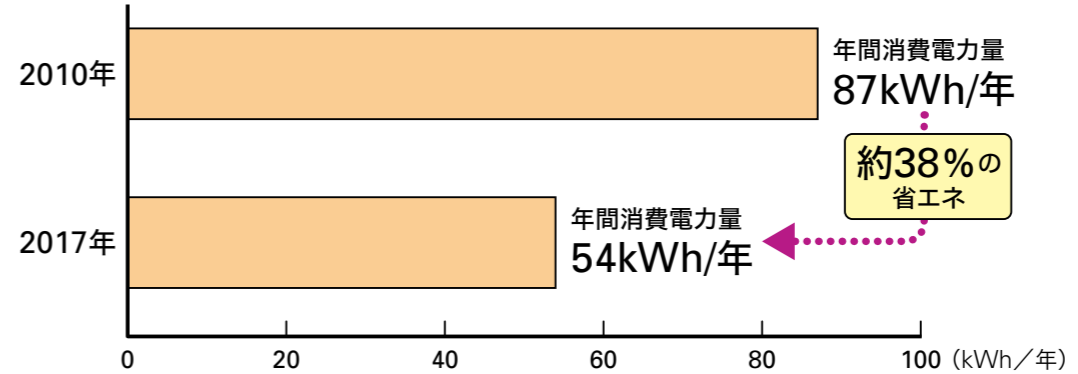


コンセントからプラグはぬかなくてもOK
電気製品の中にはスイッチを切ってもごく少量の電気を使っているものがある。でも、テレビやDVD、エアコンなど、毎日使っている電気製品はコンセントからプラグをぬかなくてもだいじょうぶだよ。

メーカーの取り組みを見てみよう

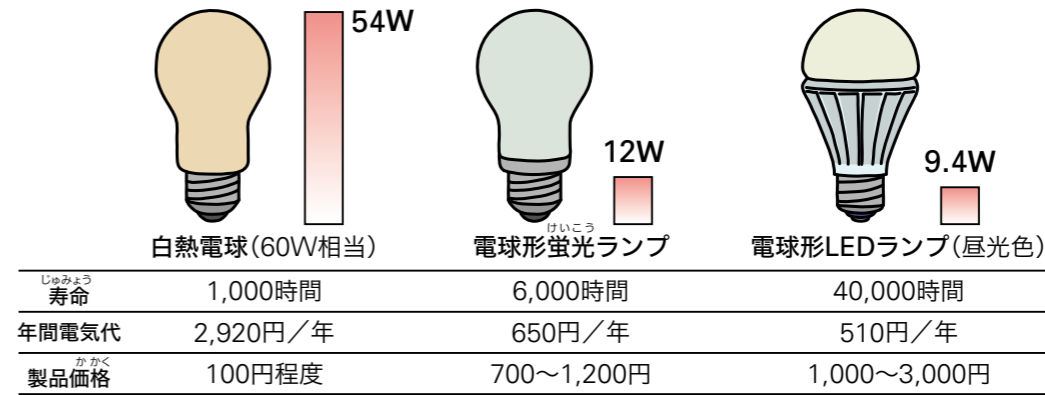
電気製品を作るメーカーもつねに省エネ性能の高い製品の開発に取り組んでいる。新しい電気製品を買うときは、省エネ型の製品をえらべば家庭の省エネにつながるよ。

◎テレビの新旧モデルをくらべると



※省エネ性能カタログ夏版・冬版の液晶テレビ32V型単純平均値
※1日あたりの平均視聴時間4.5時間、平均待機時間(電子番組表取得時間を含む)19.5時間を基準に算出したもの。
(出所) 資源エネルギー庁「省エネ性能カタログ 2018年冬」

◎電球の種類をくらべると



※白熱電球60W相当品での比較。年間電気代は、1日5.5時間点灯した場合の目安電気料金。
(参考) 総合資源エネルギー調査会省エネルギー・新エネルギー分科会省エネルギー小委員会照度器具等判断基準ワーキンググループ最終取りまとめ
(出所) 資源エネルギー庁「省エネ性能カタログ 2017年冬」

省エネタイプの製品をえらぼう

わたしたちが電気製品などを買う時にめやすになるのが「省エネラベリング制度」のラベルだ。省エネ基準を達成したすぐれた製品は緑色のマークがついている。製品を買いかえる時に環境にやさしい省エネ型製品をえらぶめやすくなる。

対象となっている製品は、エアコン、冷蔵庫、テレビ、照明器具、電気便座、ストーブ、ガス調理器、温水機器、パソコンなど21種類ある。

◆緑のマークは省エネ基準を達成！

省エネ基準達成率 105% 年間消費電力量 〇〇〇kwh/年

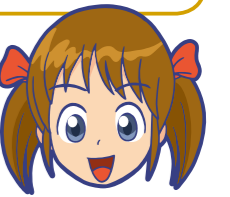
目標年度〇〇〇〇年度

◆オレンジのマークは省エネ基準を達成していない

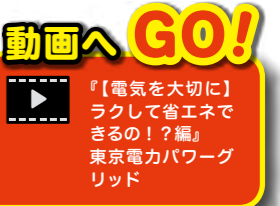
省エネ基準達成率 98% 年間消費電力量 〇〇〇kwh/年

目標年度〇〇〇〇年度

電気製品の省エネが進んでるのね！



明るさはどれもいっしょだよ。家の中で使う場所や用途に合わせて選ぼう。



ポイント

使い方や買いかえ方を工夫するだけでも省エネできるね。

ためしてみよう

節電方法を考え実行してみよう。実行したら効果を見直してみよう。